

# ベン図ツール

参加者の経歴、専門知識、関心に基づき、共通テーマを中心にグループ編成をするための図

## ■ ベン図ツールとは？

参加者それぞれの専門性（経歴、専門分野、関心など）と、関心のある共通テーマを図式化して明確にするものです。ベン図は重なり合う3つ以上の円で構成され、各円はテーマを表します。参加者は各自の専門知識と関心に基づいて、1つの円もしくは円が重なり合う領域に割り当てられます。ベン図ツールでは、多様な人々が集まったグループにおいて、以下のことができます。

- 1) 参加者の専門知識の多様性と分布がわかる。
- 2) 共通するテーマを中心に参加者をグループ分けできる。

## ■ なぜ使うべきか？

知識の共創では、経歴、専門知識、関心が個々に異なる多様な参加者が集まります。ベン図を作成するとそれらが可視化され、参加者が共通のテーマに対する互いの専門知識や関心を意識できるようになります。その結果、参加者が自発的にサブグループに分かれることや、モデレーターが透明性を持ってグループを編成することが可能になります。

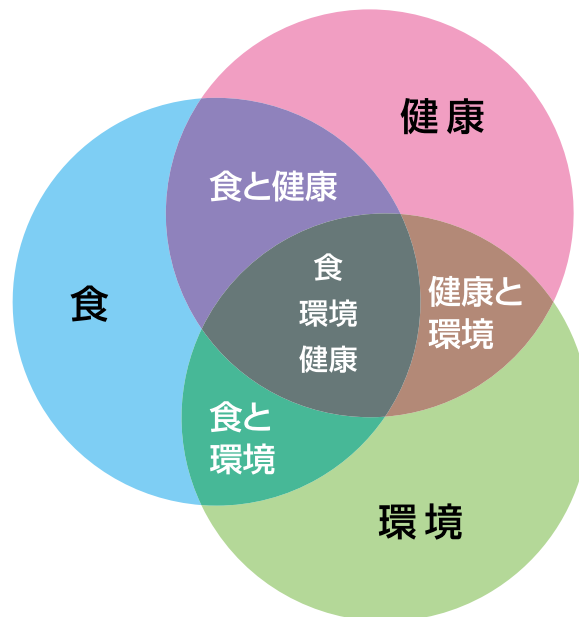
## ■ いつ使うべきか？

共同プロジェクトの初回のワークショップで使うと、互いを知り、知識共創のためのテーマを決定するのに役立ちます。

## ■ どのように実施するか？

- 1) モデレーターは参加者またはプロジェクトリーダーに相談して、どんなテーマをベン図にまとめるかを明確にします（例：食と健康と環境）。
- 2) モデレーターはベン図を用意します。
- 3) モデレーターは、参加者がグループに分かれる前（例：ミーティングやワークショップ開始時）に、ベン図について参加者に説明します。ベン図は大判の紙に印刷するか、手書きします。スクリーンに投影する方法もあります。どの方法にするかは、参加者のインプット（意見や情報）を（ミーティングやワークショップの最中に）ベン図にまとめやすうかに留意して決めます。
- 4) モデレーターのサポートを受けながら、参加者は一人ずつ自分を表す画像か付箋をベン図に貼っていきます。そして一人ずつ手短かに自分の経歴を紹介し、ベン図のどの領域になぜ関心があるのか説明します。

- 5) 全員の画像か付箋がベン図に配置されたら、モデレーターは、ベン図を参考にしながら知識共創の共有テーマとグループ分けについての提案を参加者に促します。チームの多様性（例：ジェンダー、人種、年齢、専門分野など）が要求されるとか、ほかにチームの構成基準がある場合、それに応じた変更案を参加者に求めます。このグループ分けの変更は画像や付箋を移動させるか、ベン図に直接印を付けていきます。



ベン図の例

### ■ 考え方の相違をどう埋めるのか？

ベン図ツールを使うと、モデレーターと参加者は考え方の違いをはっきり認識することができます。その違いは、参加者がテーマの「全景」に自分を置き、どの専門知識に貢献できるかを説明するときに現れます。さらに、物理的に関心の重なりや共通点を可視化することで、参加者が共有している関心を見つけ出すことも可能です。

### ■ アウトプット・アウトカム\*は何か？

第一のアウトカムは、一連の共通テーマが決まり、知識共創に向けてテーマをさらに整理するために有益な参加者グループが編成されることです。第二のアウトカムは、参加者全員の異なる経歴、専門知識、関心をより意識するようになることです。違いを比較し、重なり合う領域があることを確認できます。

---

#### 【訳注】

\*「アウトプット」：短期的に得られる、活動の結果。「アウトカム」：中期的に得られる、活動の成果。

## ■ 誰がどんな役割を担うのか？

プロセスをサポートするモデレーターがいると良いでしょう。ただし、付箋等の配置やグループ分け等は参加者が中心となって行います。

## ■ 何を準備すべきか？

付箋、大判の紙に印刷したベン図、マーカーペン。あるいはノートPCとプロジェクター。

## ■ やらないほうがいい場合

ベン図ツールは中規模グループ（10～30人）向けのため、小人数や大人数のグループには適していません。

SDGs: Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）

このリーフレットは SDGsの目標 4, 16, 17 に貢献します。

・ [sustainabledevelopment.un.org](https://sustainabledevelopment.un.org)



### 【謝辞】

スイスアカデミーは、td-net 科学諮問委員会が選出した、td-net ウェブポータル編集委員が、品質を担保するために貢献したことを感謝します。ウェブポータルとツールボックスは、スイス・メルカトル財団の助成により、チューリッヒ大学 TdLab と共同で開発されました。

### 【英語版】

原 題 Venn diagram tool.  
td-net toolbox profile (6)  
著 者 Dr. BinBin Pearce  
ETH Zurich • Transdisciplinarity Lab (TdLab)  
発行所 Swiss Academies of Arts and Sciences (a+)  
Network for Transdisciplinary Research (td-net)  
[www.transdisciplinarity.ch](http://www.transdisciplinarity.ch) • [td-net@scnat.ch](mailto:td-net@scnat.ch) • @td-net  
House of Academies • Laupenstrasse 7 •  
P.O. Box 3001 Bern • Switzerland

### 【監訳者注】

この文書は、スイスアカデミーによる『td-net ツールボックス』の英語（オリジナル）版を翻訳したものです。訳文の質と解釈に関しては、監訳者（大西有子）に責任があります。

(This profile has been translated into Japanese by Yuko Onishi. Cultural translation and quality assurance is in the responsibility of the translator.)

### 【日本語版】

書 名 ベン図ツール：  
td-net ツールボックス ツール No.6  
発行日 2023年 12月 1日  
著 者 Pearce, B.  
監 訳 大西有子  
発行者 知の共創プロジェクト (14200130)  
発行所 総合地球環境学研究所  
京都府京都市北区上賀茂本山 457 番地 4  
U R L <https://cocreationproject.jp/learn/tool/>